

## ネネゴ

稲子の東はずれに「ネネゴ」といわれる淋しい所があります。

むかし、そう二百六十年も昔のおはなしなのです。

その年は、どうしたことか雨が多くくる日もくる日も雨が降っていました。そしてついに八月十日午前二時ネネゴの裏の土手が百八十mも切れてしまいました。村中の人々が力をあわせ土手の修理にかかるのですが水の勢は少しも弱くならず、トウトウと家、田、畑を押し流していくのです。どうしても切所きれしよがふさがらないので、昔からのいい伝え通り「女の人柱をたてねば駄目だ」という事になってしまいました。

丁度その様な時、何も知らない「おたまさん」は赤坊を背負って「ネンネンヨー」とあやししながら、なかなかふさがらない切所を見にやって来たのです。それを見つけた村人達は、「それっ」とばかり泣きわめき、あばれさけぶおたまさんをつかまえて、赤坊を背負ったまゝ切所に投げこんでしまいました。

切所はふさがりました。

水もひきました……。

でも、そこには、夜な夜な恐いほど悲しげな、うらめしげな女の声が見える様になりました。

「ネンネンヨー」

「ネンネンヨー」……と。

人々はおそろしがって、このあたりをネネゴと呼びあまり近よらなくなってしまうました。そばにはいつだれが建てたのか、「ガキつか」という石塚がポツンとあったそうですが、今はもうどこにもみあたりません。



・ネネゴ

ネネッコ、

赤ちゃんの

こと。

・ガキ

子供のこ

と。